



## 2学期は中だるみに注意せよ！

学校生活に慣れてくると、どうしても中だるみが生じがちだ。3年生は受験を控えてそれどころではないだろうが、1～2年生、特に2年生は部活等が忙しくなって学習に身が入らなくなるのはよくあることだ。2年で成績が低下すると挽回するのに時間がかかり、3年になってから苦勞をすることになる。最悪の場合、受験に間に合わず、第一志望校に合格しないということもある。それくらい2時期は大切なのだ。そこで今回は2つの提案をしたい。

### ①中間考査と2学期の模試に目標設定をしよう！

中間考査や2学期の模試でどのくらい取るかという目標を決めておくと、学習に身が入りやすい。平均点を超えるとか、8割以上取るとか、何でもいいから具体的な数値を設定しておこう。模試に関しては、前回の進路通信を参考にしてほしい。



### ②将来を考え、目標を大きく持とう！

大学に行くのは、あくまで将来の夢を実現するための「手段」にすぎないが、それでもやはりできるだけ大きな目標を持った方がいい。私立ならば早慶上智だが、国公立も視野に入れておこう。

そこで今回は**国公立大の良さ**をまとめておく。

- 学費が安い。私大の約半分。保護者の方の負担も少ない。
- 研究設備が整っている。特に理系。国からの補助金が多いので、実際に訪ねてみると、その差はすぐにわかる。
- 教員一人当たりの生徒数が少なく、教員と密接に関わることができる。早稲田では教員1人当たり約30名、東大では4名だとか。大人数の中で埋もれるのではないかと不安な人は、国公立の方が向いているかも。
- 国立というブランド力がある。旧帝大は全国的に、地方国公立はその地方において評価が高い。
- 意外に受かりやすい。5教科7科目もあるので敬遠されがちだが、苦手な科目があっても他でカバーできるので、特定の科目に抜きん出る必要はない。本校でもMARCHに受からなかったが、国公立に受かったという人もいる。

→1～2年生は、まず国公立大を考えてみよう。3年生でいったん国公立を目指した人は最後まで諦めないこと！必死に粘った人は、意外に受かったりするものだ。まさに「諦めたらそこで試合終了！」だよ。

## 頑張りますでは頑張れない！



よく「将来、ビッグになる！」という人がいるが、寡聞にしてそういう人がビッグになった例を聞いたことがない。理由はいくつかあるが、やはり「ビッグになる」という目的に**具体性がない**ことが大きい。何を、いつまで、どうするのかということを意識しないで、ただ「ビッグになる」と意気込むだけでは、何もできないまま終わってしまうのだ。同じことは学習面においてもいえる。先生との面談の中で、こんな会話をしていないだろうか。

先生「古文が悪いね。なんとかしないといけないよ」

生徒「はい、頑張ります！」

これは「ブー！」だ。頑張るという意欲はいいが、何を、いつまでに、どうするかがはっきりしていないので、何もしないまま終わってしまうおそれがある。「頑張ります」だけでは「頑張れない」のだ。そこで、こう言わなければならない。

先生「古文が悪いね。なんとかしないといけないよ」

生徒「はい、わかりました。期末テストまでに重要単語と文法を覚えて、冬休み中に問題集を1冊仕上げます。それを見せますので、3学期に期待してして下さい！」

これで「ピンポ～ン！」になる。では、具体的な目標を実行に移すにはどうすればいいのか。要は、**目標を公言して自分を追い込めばいいのだ**。『成功する男はみな非情である』（大和書房）という本より引用する。

『よくパソコンの画面隅に「今日中に誰々にTELすること」などと書いた付箋を貼っている人がいるが、どうせなら、もっと大きな目標がいい。

「来年までに課長昇進」「夏までに3キロ減量」「完全禁煙10日」

そんなものを貼れば、同僚や上司からちゃかしに来るだろう。自然とその話題になる。期限が近づけば周囲は面白がるだろう。

そうやって、自分の目標を周囲にアピールし、結果を出すように追い込んでいく。つまり、結果を常に意識することが大切なのだ。

要は、自分の目標や達成率をどれだけリアルタイムに意識できているかが大切なのだ。今、この瞬間にあなたに質問しよう。今の目標は何？ そのために何をどのようにしようと思っているのか？

もし即答できないなら、あなたはその目標に対して真剣さを欠いているのだ。』

ここまで読んだ人は、今の目標を友達や先生、保護者の方に話して、そうせざるをえないように自分を追い込んでみよう！

## 進路NEWS



今年のセンター試験出願率はなんと**100%！** **みんなで仲良く楽しくセンター試験を乗り切ろう！**

昨年までの出願率は以下の通り。

29年 236 / 239 (98.7%) 28年 239 / 239 (100%) 27年 237 / 241 (98.3%) 26年 233 / 238 (97.9%) 25年 240 / 243 (98.8%)

## <3年生へ>

■ **10/11でセンター試験まで100日となった。**しかし、「100日しかない」ではなく「100日もある」と考えて、計画的に学習に取り組もう！これから時間はかなり濃密になる。100日もあれば何だってできると思うこと！

■ 9月に実施した駿台ベネッセマーク模試の結果は芳しくなかった。奮起を期待する！

### ■ 10/10(水)受験カード記入説明会

いよいよ受験日程を立ててもらおう。センターで受験する大学、一般で受験する大学を決め、出願日や試験日、手続きの締切日等を見ながら日程を決めていく。日程の組み方によって合否も左右されるので重要な作業になる。詳細は当日説明する。 11月中旬一次提出。11月末に最終提出。

### ■ 1/4(金)~7(月) 毎年恒例のセンターマラソンを実施！

今年からバージョンアップした方式になるので、まもなく配布する説明書をよく読んでほしい。例年8割近くの生徒が参加して、センターの直前演習をしている。みんなもぜひ参加しよう！

■ **10/9(火)駿台ベネッセ記述模試**と**11/2(金)駿台ベネッセマーク模試**のデータを使って出願指導を行うので、2つの模試はかなり重要になる。目標を立てて模試に望んでほしい。

## <1~2年生>

11/2(金)に模試があるので中間考査が終わったら、この模試に向けて計画的に学習しよう！

12/11(火)1年生はキャンパスツアーを実施する。オープンキャンパスとは違った普通の大学の姿を見てほしい。予定大学は次の通り。**東京工業大 東京農工大 一橋大 東京外国語大 東京学芸大 早稲田大 上智大**

## 閑話休題①

学校では「勉強しろ！ 勉強しろ！」と言うけれど、本当の勉強って何だろうか。二人の話を紹介するので考えてほしい。(これまで何度も紹介した話)

## 帝国ホテル料理長・村上信夫さん

は修行時代、ひたすら先輩コックの料理法を「盗んで学んだ」という。コックの地位や収入は腕によって決まるので、同僚も後輩もみなライバルであり、誰も教えてはくれない。そこで、先輩の料理法を見て盗み、鍋に残されたソースをこっそりなめて味を覚えるしかなかった。ただ覚えるだけでは忘れてしまうので、技術を盗むたびに4B鉛筆で左腕にメモを書きつけたという。

「おい、塩を大きじ三杯だ」と命じられると、素早く袖をまくりあげ気付かれないように肘の部分に書きつける。「スープ十人分、塩、大、三」味付けの要領から調理の手順まで何でも書いていく。そうして下宿に帰ってから、この左腕のメモをノートに書き写して整理した。書き写したあとは洗って消したが、左腕の皮膚はだんだん厚くなり、

鉛筆の後が消えなくなった。

そんな努力によって作られた調理法は、今では一冊のレシピにまとめられて、初めから若いコックに配られる。その通りにすれば誰でも同じように料理が作れるので、技術を盗んだり、こっそりメモする必要はなくなった。しかし、村上さんは言う。

「学習の効率という点では、それは確かにいいことです。しかし、教えないで覚えさせるという修行は辛く厳しかったが、自分の目と手と感覚で発見していく喜びと感動がありました。それを知ることができなくなった今の人たち、教えるから覚えろと言われる今の若者たちはかえって不幸なのではないでしょうか」

今も村上さんの部屋には左腕から写し取ったメモ帳が、かけがえのない宝物として置かれている。

『読むクスリ』(文春文庫)より。

## 小説家・田辺聖子さん

は古文の世界に造詣が深く、源氏物語や枕草子等から材を取って様々な小説を発表している。田辺さんが古文を好きになったのは、高校時代のある経験がきっかけだった。授業で学んでいる『徒然草』の一節がどうしても理解できず、古文の先生のところに聞きにいったところ、こう言われたという。

「なぜ、すぐに聞きにきたんですか。自分でわかろうと努力しましたか。わからなければ、その部分をノートに百回書き写しなさい。それでもわからなければ質問に来なさい」

普通、こう言われたら「質問に答えないひどい教師だ」と腹を立てるだろう。しかし、田辺さんは違っていた。先生の言う通り、徒然草の一節を百回ノートに書いたのだ。その時のことをこう述べている。

「百回書くうちに、文法などわからないのに、兼好法師の言っていることが、染みるように伝わってきたんです。ああ、そうなんだ、そういうことだったんだと。それから古文の世界が好きになったんです」

もしも、先生が普通に文法や口語訳を教えていたら、こうした体験をすることはなく、今の田辺聖子さんはなかったかもしれない。先述した村上さんと同じように、自分の力で理解しようとすることで発見の喜びと感動があったのだ。

→さて本当の勉強とは何かわかったかな？

## 閑話休題② ノーベル賞を受賞した本庶祐氏の言葉

本庶祐氏はインタビュー等で含蓄のある言葉を述べている。それをいくつか紹介する。

■研究に関しては何か知りたいという好奇心。もう一つは簡単に信じないこと。ネイチャー、サイエンス(の論文)も10年たてば残って1割だ。自分の目で確信できるまでやる。自分の頭で考えて納得できるまでやる。

■一番重要なのは、何か知りたい、不思議だと思う心を大切にすることだ。本当はどうなっているのかという心を大切に。自分の目でものを見る、そして納得する。そこまであきらめない。そういう若い小中学生が研究の道を志してほしい。

→みんなはどう思う？

